

飯島勅作 「ダンケシェーン、スージー」

(効果音) (飛行場到着ロビー)

高原牧人(弟) 遅いなあ。ルフトハンザの 503 便、予定より 30 分も遅れているよ。この飛行機にちゃんと乗っているのかなあ。

高原恵(妹) あ！ 掲示板のランプが点滅し始めた。着いたんだわ、ドイツからの 503 便。スージーってどんな子かなあ。写真で見る限りはとってもかわいいんだけどなあ。

高原健 お前よりよっぽどな。あの金髪、あのブルーの瞳。おれ、胸がドキドキだよ。

恵 何よ、お兄ちゃん！ あたしのお友達なのよ。スージーに変なことしたら承知しないからね。

健 人聞き悪い。“変なこと”って何だよ？

牧人 やめなよ、2 人とも。ねえ、もっと前に進まなくちゃ。僕、全然前が見えないよ。お兄ちゃん、「ようこそスージー」って書いた紙、もっと高く上げなくちゃ、向こうから見えないよ。

恵 「ヘルツリッヒ・ヴィルコメン、スージー」。みんな、ちゃんと覚えた？ それと、えーと「ありがとう」は「ダンケ...」？

牧人 「ダンケシェーン」だよ。姉さんは覚えが悪いなあ。

父 まあ、ホームステイで外国の子をお預かりするというのは、楽しく、ウキウキするものだなあ、母さん？

母 そうですね。うちの子供たちにとって、貴重な体験となるといいわ。スージーにも、日本のお正月を存分に味わってもらいましょう。本当に、お正月といういい時に来てくれるわ。日本が一番日本らしい時ですものね。

(効果音) (空港)

ナレーション ここは成田空港の到着ロビー。そして今日は、暮れも押し迫った 12 月 29 日。高原家は、この暮れから正月にかけて、ドイツからの中学生をホームステイで預かることになり、今、全員で成田まで迎えに来ているのです。そのスージーという中学生は、父親がかつてドイツに単身赴任している時にお世話になった家の娘さんなのです。スージーは、その時から日本に興味を覚え、“いつか日本に行きたい”と、日本語を習っていました。

牧人 ねえ ねえ、お父さん。今出てきた人、違う？ お兄ちゃん、その紙、もっと高く上げなきゃ。

恵 あ、こっちへ来る！ この紙の文字、読めたんだ。

父 おっ、そうだ。スージーだよ。あんなに大きくなって。

スージー (遠くから) ハーイ、ワタシハ、スージー、スザンナ・フィッシャーデス。オトウサ

ン、オカアサン、コンニチハ。ミナサン、コンニチハ。

父 健 やあ、スージー。大きくなったね。それに、こんなに美しくなって。
(小声で) 牧人。スージー、すげえ美人だぜ。写真どおりの金髪。おれ、うれしくなっちゃうよ。でも、これで中学生かよ。まるで大人だぜ。

牧人 (小声で) お兄ちゃん！ もうそれ以上言わないこと。

恵 スージー。へ、へ、...ヘルツリッヒ ヴィ、ヴィルコメン。

スージー ダンケ。ピスツ ドゥー、メグミ？ オー、スママセン。アナタ、メグミ？

父 そう、これが恵。これが弟の牧人。そして兄の健。それにお母さん。これが我が家の全員だ。スージー、じゃ行こうか。ラス ウンズ ゲヘン。ほれ、みんな、荷物を持ってあげなさい。

恵 スージー、うちには車はないの。電車で行くのよ。年の終わりの東京の街を見るのも悪くないわ。

(効果音) (街の雑踏)

ナレーション スージーを加えた一家 6 人は、電車を乗り継ぎ、年の瀬の東京の街に出ました。今年もあと 3 日。街中が歳末の大売り出し。どこもかしこも大変な人出です。森ばかりに囲まれて育ったスージーには、すべてが驚くことばかりでした。荷物をコインロッカーに預けて、高原家はデパートに入り、お正月の品々を買うことにしました。

(効果音) (デパート)

母 ねえ、お父さん。神棚にお供えするおもち、まだでしたね。

父 そうだったな。今度のお正月は、スージーもいることだし、少し立派なのを買おうかね。

スージー コレ、ナンデスカ？ マルクテ、オオキクテ、2ツ カサナッテイテ。

恵 これはね、おもち。お米からできているの。お米のケーキよ。そう、お米のクーヘンってとこかな。

スージー クーヘン？ コレ、タベルノデスカ？ コンナカタイモノ、ドウヤッテタバマスカ？

恵 これはわたしたちが食べるのではなくて、神様にお供えするの。分かる？ お供えするの。神棚に置いて、こうやって手をたたいて、拝むの。新しい都市の無事と安全をお願いするの。

スージー カミサマニソナエル？ ソノマエデテヲタタク？ オガム？ ソレ、チガイマス。カミサマニ オソナエハシマセン。ソレ、イケナイコトデス。

恵 スージー。これは日本の習慣なの。お正月が来ると、どこの家でも、だれでもするのよ。スージーも日本に来たのだから、日本の習慣を知るといいね。

スージー イイエ、イケマセン。マコトノカミサマハ、ソナエモノナドシナクテモ、ワタシタチノコトラ、イツモチャントアイシテクレマス。ソナエモノナドシテハ イケナイノデス。メグミノハナシタカミサマッテ ナンデスカ？ メグミハ ソノカミサマニツイテ、ナ

ニラシッテイマスカ？

恵 別に。そう聞かれると困っちゃうな。そう、これは習慣よ。日本の慣わしよ。意味はないのよ。

スージー イミノナイコトラ ナゼスルノデスカ？

恵 ねえお兄ちゃん、助けてよ。

健 おれだって分かんないよ。おもちを重ねて備えれば、なんとなく手を合わせて拝みたくなる。ただそれだけじゃないの？ 別におもちが神様じゃないしよ。なんとなく、新年になれば、だれしもそんな気分になるのさ。でも考えてみると、日本人って、平気でバカくさいこと、やってんだよな。いくら慣わしだからといって、おもちの前で手をたたいて拝むなんてさ。スージーの言うことのほうが筋が通ってるよ。スージー、アイ、アンダスタンド。

恵 何よ、兄さんたら。調子がいいんだから。スージーに気に入られたいんでしょう。

ナレーション 結局、高原家では、今年はお供えのおもちを買うことをやめました。スージーと子供たちのやり取りを聞いていた父も母も、今まで毎年、長いこと行ってきたことに、どのような意味があるのか、考えさせられたからです。

そして、今日は元旦。スージーを囲んでお雑煮を頂いたあと、全員がコタツの周りに集まっています。

恵 ドイツでは、新年を迎えると、なんて言ってあいさつするの？

スージー ドイツデハ、「アイン、グリュックリッヒェス、ノイエス、ヤール」トイウワ。アナタニトッテ、シアワセナ 1 ネンデアリマスヨウニ、トイウイミネ。

恵 アイン、グリュッ... グ... 舌をかみそうだわ。

(全員) (笑い)

父 さて、そろそろ出かけるとしようか。みんな、用意はいいかな。

母 今年はスージーがいて楽しいわ。スージーには日本のお正月を見てもらいましょう。スージー、これからあなたを初詣に連れて行ってあげるわ。

スージー “ハツモウデ”、ソレ、ナンデスカ？

牧人 うちね、毎年元旦に明治神宮へ初詣に行くのが慣わしなのさ。

スージー “ハツモウデ”。ソレ、セツメイシテクダサイ。ワタシ、ソレデナイト コマリマス。

母 あら、そうね。スージーには、これもいけないことなのかしら。

恵 あのね。明治神宮には、昔の日本の天皇、そう、カイザーって言ったら分かるかな。そのカイザーが神様になって、祭られているの。新年になると、ほとんどの日本人が、そのようなところへ行って、一年の無事を祈ったり、家庭が安全であるようにとか、お金がもうかるようにとか、試験が合格するようにとか、お祈りするのよ。

健 おれなんか、そうお願いして、高校入試に失敗したもんな。

スージー ソレ、イケマセン。ワタシニハデキマセン。ミナサンモ、シナイホウガイイデス。ドウシテカイザーガ カミサマニナルノデスカ？ カイザーモヒトリノニンゲンデシタ。カイザーモ ワタシタチトオナジ ツミノアルニンゲンデシタ。シンデ、ドウシテソノヒトダケ カミサマニナルノデスカ？

健 日本人って、そういうこと好きな民族なんじゃないの？ まあ、一年のけじめってとこかなあ。

スージー ニホンジンデモ、ドイツジンデモ、ドノミンゾクデモ、オナジアヤマチヲオカシマス。ドイツジンダッテ、ムカシ、ヒットラーヲカミサマトオナジニシテシマイマシタ。ワタシハシマセン。デキマセン。イキタクアリマセン。セイショノカミサマイガイノモノヲ、カミサマトシテオガンダリスルコトヲ、ワタシハシマセン。セイショデハ、ソノヨウナコトヲキビシクキンジテイマスヨ。

恵 そんなの勝手だわ。聖書の神様だけがほんとの神様だなんて。

スージー デモ、ソウデス。セイショノカミサマダケガ、ホントウノカミサマデス。セイショノカミサマハ、シンダカタデハアリマセン。イマモイキテイルカミサマデス。ダカラワタシタチハ、ソノカタニオハナシスルヨウニシテ、オネガイスルコトガデキルノデス。

恵 聖書の神様って、一体どんな神様なの？

スージー セイショノカミサマハ、コノテンチウチュウヲツクリ、ドウブツヤ、ショクブツヤ、ソシテニンゲンヲツクッタカタデス。セイショノカミサマハ、イマモイキテイテ、ワタシタチ ヒトリヒトリニ カンシンヲモッテオラレマス。ア、ソウダ、メグミ、コノチカクニキョウカイハアリマセンカ？

健 キリスト教の教会？

牧人 あるよ。ほら、5丁目の薬屋さんの角入ったところに。

スージー ミナサン。オトウサンモ、オカアサンモ、コレカラミンナイッショニ、ソノキョウカイヘイキマショウ。イマハ 10 ジデスネ。キット、イチネンノサイショノレイハイヲシテイルトオモウワ。

父 スージーのおうちは、そう言えば全員が教会に行っていたよ。父さんも何遍か連れていってもらったことがある。スージーは大切なお客さんだ。スージーの言うとおりにしよう。な、母さん。

母 そうねえ。... そうしましょ。それじゃ、今年は教会で初詣ってわけね。“教会の神様”っていうの？ その“聖書の神様”にお祈りしましょうか。スージーの言うとおりに、わけも分からず、ただ習慣だからと言って神社へ行ってお参りするのには、おかしいことかもね。

牧人 行こう 行こう。教会へ行ってみよう。僕、前に、その教会の教会学校に行っていたんだ。

ナレーション 恵は、今なんだかとっても不思議な思いでした。スージーと同じ目で自分の周り

を見ると、自分も含めてなんと多くの日本人が、単なる気休めとしか思えないことをやっているのか、そのことに気がつかされたからです。

恵

週間だからってやっても、考えたら、なんかとてもおかしいこと、ううん、怖いことってあんのね。スージー、ありがとう。あなたは我が家にとって、本当にすてきなお客様よ。ダンケシェーン、スージー。

ナレーション

そうつぶやきながら、恵は、“スージーの言う聖書の神様が本当にいるなら、自分も知りたいな”、と思ったのです。

< 完 >